

藤沢市立御所見小学校

研究テーマ：学んで楽しい！ 子どもが主役の授業づくり ～学び心を育てよう～

1 実践の目的

日本政府が提唱する、仮想空間（サイバー）と現実空間（フィジカル）を高度に融合させ、人々の快適で質の高い生活を実現する「超スマート社会」Society5.0を生きていく子どもたちに、地域の中学校1校と小学校2校での、義務教育9年間で身に付ける必要のある力を、児童・生徒、保護者、地域関係者、教職員が共に学習し、同じイメージをもつ。そして、地域の子どもたちが育ちたい児童・生徒像と、保護者、地域、教職員が連携して育てたい児童・生徒像を共有する。

その共有したイメージの元で、児童・生徒の育成のための、具体的な研究に取り組んでいく。

2 実践の内容

(1) 3校校内研究交流の体制づくり

小中3校でのかながわ学びづくり実践研究推進校の指定を受けたことから、まず3校がどのように校内研究に取り組んでいるのかを共有する体制をつくる必要があると考えた。

そこで、3校の研究主任を中心に、交流する機会をつくり、互いに各校の研究概要の説明や公開授業、校内研究全体会の日程等の共有を行い、自校の職員に周知した。

その上で、学校間の垣根を越えた授業参観や研究会への参加体制の構築を図った。



そして、「ICTを活用したプレゼンテーション力の育成」をテーマに、講師を招聘し、教員向け講座、講師による模範授業、研究協議を実施した。



(2) 身に付ける必要のある力の学習

地域の中学校1校と小学校2校での、義務教育9年間で身に付ける必要のある力を、児童・生徒、保護者、地域関係者、教職員が共に学習し、同じイメージをもつ機会として、大学教授に、児童・生徒向けと保護者、地域関係者、教職員向けの講演会を同日に時間を分けて行っていただき、地域全体で理解を深めた。



(3) 育ちたい・育てたい児童・生徒像の把握

(2)の講演会やこれまでの知識、経験等をもとに、児童・生徒には、自身がどのような人に育ちたいのか、また、保護者、地域関係者、教職員には、児童・生徒がどのような人に育ってほしいのかを聞くアンケートを実施した。

アンケート対象は、児童・生徒は3校の小学4年生から中学2年生までの5学年。保護者は、3校の全保護者。地域関係者は、児童・生徒に関係する施設、団体等に所属している方。そして、3校の教職員とした。

(4) 育ちたい・育てたい児童・生徒像の共有アンケートの結果を回答した対象全体で共有し、次のように活用していくことを確認した。

児童・生徒は、自らの成長についての願いを言葉にし、まわりの児童・生徒や大人の願いを知ること、具体的な目標を立て主体的に成長しようとする姿勢につなげる。

保護者、地域は、それぞれの願いを知ること自身の子どもに加え、地域全体の子どもの健全な成長を願い、それぞれの施設、団体等で企画する子ども向け行事などの企画運営に生かしたり、関わったりする。

3校の教職員は、児童・生徒、保護者、地域の願いを知り、また自身の願いを踏まえ、9年間の成長を見据えた、共通の支援・指導方針を立案し、自校また3校が連携した教育活動を充実させる。

3 実践の成果と課題

(1) 3校校内研究交流の体制づくり

各校研究主任が研究授業や協議会の情報を積極的に発信し、それぞれの教員が他校での取組に参加しやすい体制、雰囲気づくりを行うことができた。

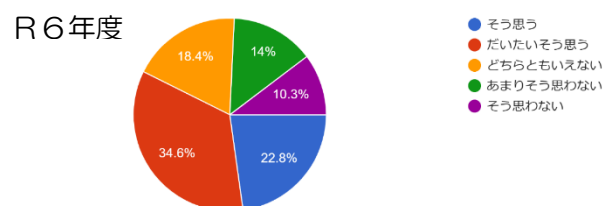
公開授業は、自校の授業や行事と重なることが多く、参加できる教員数が十分ではなかった。より多くの教員が参加できるよう、時間の調整等が今後の課題である。

(2) ICTを活用したプレゼンカの育成

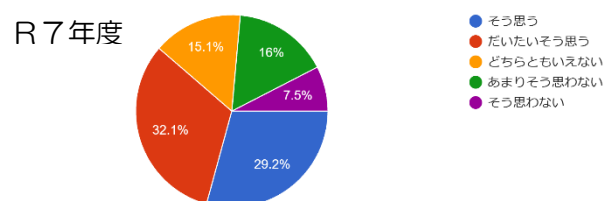
毎年度末に実施している児童へのアンケートに「自分の考えをみんなの前で発表できる」という項目があり、他の項目に比べて不得意とする割合が多く、本校の課題の一つであった。そこで、「ICTを活用したプレゼンテーションカの育成」をテーマに取り組んだが、前年度「あまりそう思わない」

14%、「そう思わない」10.3%であったが、

8 自分の考えをみんなの前で発表できる
136件の回答



8 自分の考えをみんなの前で発表できる
106件の回答



今年度は、それぞれ16%、7.5%で少しの改善であった。また、「そう思う」が22.8%から29.2%と改善が見られた。

このことは、ある程度の理解力のある児童には、自信がついたことが推察される。講師の模範授業を教員が咀嚼し、普段の授業に生かすことが必要である。

4 今後の展開

今後の大きな課題は、アンケートを実施して共有した、貴重なメッセージである、「育ちたい・育てたい児童・生徒像」をどのように有効活用して、その実現を目指すかである。

学校としては前述した、3校の教職員は、児童・生徒、保護者、地域の願いを知り、また自身の願いを踏まえ、9年間の成長を見据えた、共通の支援・指導方針を立案し、自校また3校が連携した教育活動を充実させることに注力していく。特に「9年間の成長を見据えた、共通の支援・指導方針の立案」について、各校の児童支援、生徒指導担当を軸に、来年度当初の立案を目指し、今年度内からの素案づくりに取り組んでいく。